

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和4年度報告)

和歌山県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

県内30市町村全てで被害防止計画が策定されており、うち17市町(12協議会)が令和4年度で計画が終期を迎えるため今回の評価報告の対象となっている。

2 事業効果の発現状況

本県では、各地域(県振興局単位)に市町村、農協、猟友会など関係機関が参画した協議会を設置し、実施隊等による有害捕獲活動及び追い払い活動、捕獲檻の導入、防護柵の設置等の取組を実施している。令和2~4年度の県下全域の有害捕獲頭数(緊急捕獲事業)は令和3、4年度のイノシシ捕獲数が豚熱蔓延の影響も受け大幅減少し、3ヶ年合計でイノシシ30,560頭、シカ35,373頭、サル3,121頭となった。加えて、捕獲匠をさらに高めるには人材育成が重要なため、鳥獣害対策アドバイザー研修、捕獲技術向上研修(銃・わな)などを継続的に開催してきた。令和4年度の農作物被害額は2.61億円と令和3年度からほぼ横ばいでイノシシ豚熱蔓延の影響が残っている状況であるが、農作物被害等の更なる減小を目指し、有害捕獲を中心とした総合的な被害防止対策を実施していく。

3 被害防止計画の目標達成状況

県全体での被害額は平成30年度の3.02億円に対して、令和4年度は2.61億円と減小傾向にある。市町毎の被害防止計画の達成率については、今年度で計画が終了して評価対象となっている17市町村・12協議会のうち1町・1協議会を除きほぼ達成(達成率70%以上)となった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

\*評価額は対象鳥獣檻の対象鳥獣の個に並んでいます(以下段は合計値)

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率(%)	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 (被害金額・面積のいずれかが70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。)
										被害金額(千円)				被害面積(ha)						
										現状値	目標値	実績値	達成率(%)	現状値	目標値	実績値	達成率(%)			
海南市鳥獣被害対策協議会	海南市	R2	イノシシ シカ サル アライグマ	推進事業	15基 6基 17基 50人・日 311人・日				各年度とも檻の設置及び捕獲活動等の実施により農作物被害の抑制に寄与した。イノシシの掘り返しによる農地の石垣破壊を抑制する等の効果もあり農作業効率の改善にもつながった。	12,279	10,000	8,950	146.1	4.9	4.0	3.0	212.9	実施隊による捕獲活動等の実施や防護柵の設置の増加による効果もあり、令和4年度のイノシシの被害金額を大幅に抑えることができた。アライグマについては生息場所の多様さと繁殖力の高さのために効果的に被害を抑えられていない。今後もアライグマ捕獲檻の貸出等を継続して行い、農作物被害額及び生息頭数の減少を目標として、鳥獣被害防止に総合的に取り組んでいく。	国・県・市の補助事業を積極的に活用しながら鳥獣被害防止対策に取り組んでおり、対策を実施した集落では被害が減少したと聞いており高く評価している。今後も継続して対策を講じてもらえたらと思う。猟友会の高齢化が深刻なため有害捕獲の後継者確保や育成にも注力が必要と考える。	被害金額・面積とも目標達成されており、地域農業者等の捕獲機材の支援や実施隊活動、有害捕獲対策が効果を上げていますと評価します。しかしながら、イノシシ被害の大幅な減少には、豚熱による影響を考慮することが必要で、一旦減少した被害がまた、反転増加しないよう、状況把握に努め、捕獲や防護の対策の継続が重要です。また、シカの捕獲数、被害額が少しずつはあるが、増加しており、その動向に注意を払いつつ、柔軟に対策を講じていく必要があります。
				推進事業	12基 20基 10基 1個 3台 30人・日 330人・日					12,528	10,200	9,671	122.7	5.0	4.1	3.2	197.8			
				推進事業	1基 4基 22人・日 356人・日					0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
				推進事業	1413 46 276 (m) 10000					12,279	10,000	8,950	146.1	4.9	4.0	3.0	212.9			
海南市(海南市鳥獣被害対策協議会)	海南市	R2	イノシシ シカ サル アライグマ	緊急捕獲事業	(頭) 1413	海南市	R3.3.15	各年度とも有害捕獲の実施により農作物被害の抑制に寄与した。イノシシの掘り返しによる農地の石垣破壊を抑制する等の効果もあり農作業効率の改善にもつながった。	12,279	10,000	8,950	146.1	4.9	4.0	3.0	212.9	実施隊による捕獲活動等の実施や防護柵の設置の増加による効果もあり、令和4年度のイノシシの被害金額を大幅に抑えることができた。アライグマについては生息場所の多様さと繁殖力の高さのために効果的に被害を抑えられていない。今後もアライグマ捕獲檻の貸出等を継続して行い、農作物被害額及び生息頭数の減少を目標として、鳥獣被害防止に総合的に取り組んでいく。	国・県・市の補助事業を積極的に活用しながら鳥獣被害防止対策に取り組んでおり、対策を実施した集落では被害が減少したと聞いており高く評価している。今後も継続して対策を講じてもらえたらと思う。猟友会の高齢化が深刻なため有害捕獲の後継者確保や育成にも注力が必要と考える。	被害金額・面積とも目標達成されており、地域農業者等の捕獲機材の支援や実施隊活動、有害捕獲対策が効果を上げていますと評価します。また、シカの捕獲数、被害額が少しずつはあるが、増加しており、その動向に注意を払いつつ、柔軟に対策を講じていく必要があります。	
				整備事業	(m) 10000				0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0					
				防護柵の整備	533 53 276 (m) 6408				0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0					
				緊急捕獲事業	(頭) 947 90 439				12,528	10,200	9,671	122.7	5.0	4.1	3.2	197.8				
		R3	イノシシ シカ アライグマ	緊急捕獲事業	(頭) 533	海南市	R4.3.10	各年度とも農地を中心に防護柵の設置を進めた。令和3年度からは市単独での一戸向けの防護柵設置補助事業が始まり小規模な防護柵の設置が増加し農作物被害の抑制につながった。	0	0	61	0.0	0.0	0.0	0.0	実施隊による捕獲活動等の実施や防護柵の設置の増加による効果もあり、令和4年度のイノシシの被害金額を大幅に抑えることができた。アライグマについては生息場所の多様さと繁殖力の高さのために効果的に被害を抑えられていない。今後もアライグマ捕獲檻の貸出等を継続して行い、農作物被害額及び生息頭数の減少を目標として、鳥獣被害防止に総合的に取り組んでいく。	国・県・市の補助事業を積極的に活用しながら鳥獣被害防止対策に取り組んでおり、対策を実施した集落では被害が減少したと聞いており高く評価している。今後も継続して対策を講じてもらえたらと思う。猟友会の高齢化が深刻なため有害捕獲の後継者確保や育成にも注力が必要と考える。	被害金額・面積とも目標達成されており、地域農業者等の捕獲機材の支援や実施隊活動、有害捕獲対策が効果を上げていますと評価します。また、シカの捕獲数、被害額が少しずつはあるが、増加しており、その動向に注意を払いつつ、柔軟に対策を講じていく必要があります。		
				整備事業	(m) 10000				0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0					
				防護柵の整備	53 276 (m) 6408				0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0					
				緊急捕獲事業	(頭) 947 90 439				12,528	10,200	9,671	122.7	5.0	4.1	3.2				197.8	
		R4	イノシシ シカ アライグマ	緊急捕獲事業	(頭) 947 90 439			各年度とも農地を中心に防護柵の設置を進めた。令和3年度からは市単独での一戸向けの防護柵設置補助事業が始まり小規模な防護柵の設置が増加し農作物被害の抑制につながった。	0	0	61	0.0	0.0	0.0	0.0	実施隊による捕獲活動等の実施や防護柵の設置の増加による効果もあり、令和4年度のイノシシの被害金額を大幅に抑えることができた。アライグマについては生息場所の多様さと繁殖力の高さのために効果的に被害を抑えられていない。今後もアライグマ捕獲檻の貸出等を継続して行い、農作物被害額及び生息頭数の減少を目標として、鳥獣被害防止に総合的に取り組んでいく。	国・県・市の補助事業を積極的に活用しながら鳥獣被害防止対策に取り組んでおり、対策を実施した集落では被害が減少したと聞いており高く評価している。今後も継続して対策を講じてもらえたらと思う。猟友会の高齢化が深刻なため有害捕獲の後継者確保や育成にも注力が必要と考える。	被害金額・面積とも目標達成されており、地域農業者等の捕獲機材の支援や実施隊活動、有害捕獲対策が効果を上げていますと評価します。また、シカの捕獲数、被害額が少しずつはあるが、増加しており、その動向に注意を払いつつ、柔軟に対策を講じていく必要があります。		
				整備事業	(m) 10000				0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0					
				防護柵の整備	53 276 (m) 6408				0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0					
				緊急捕獲事業	(頭) 947 90 439				12,528	10,200	9,671	122.7	5.0	4.1	3.2				197.8	



事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率(%)	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 (被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。)
										被害金額(千円)				被害面積(ha)						
										現状値	目標値	実績値	達成率(%)	現状値	目標値	実績値	達成率(%)			
橋本市(橋本市鳥獣被害防止対策推進協議会)	橋本市	R2	イノシシ シカ アライグマ タヌキ カラス カワウ	推進事業 イノシシ・シカ捕獲檻	15台				購入した機材を活用し、実施隊員による捕獲活動を効率的に行ったことで、イノシシ、シカ、アライグマの被害が軽減した。	6,733	4,713	5,297	71.1	24.9	17.4	15.5	125.4	協議会で導入した檻を実施隊の有害捕獲に活用し、取り組んだ結果、令和4年度の捕獲頭数は、イノシシ454頭、シカ122頭、アライグマ94頭であった。計画目標についても達成率70%を超え、ほぼ達成することができた。 その理由としては、電波発信機・受信機や電気止め刺し機の利用により実施隊の労力が軽減されたことや、農林産物の生産者による自己防衛施策の充実があげられる。 今後は、生産者に対し狩猟免許取得を推進し、また、事業を有効活用することにより実施隊の労力軽減や有害捕獲の効率化を図り、鳥獣被害防止に努めていく必要がある。	本事業により、イノシシやシカの捕獲について一定の効果がみられ被害軽減効果は高いと考えます。引き続き、捕獲力向上を図るとともに、状況に応じて侵入防止柵の整備や環境整備など複合的な対策を実施するなど被害防止に努めていただきたい。	被害金額は目標達成率が70%未満ですが、被害面積は目標を達成し、捕獲機材導入や捕獲対策等が一定の効果があつたと評価します。 被害をもたらしている主要な獣種については、いずれも基準年から被害額・面積とも減少しているため、これまでの対策の継続強化していくことが必要です。
				電気止め刺し機	19台					2,051	1,435	1,592	74.5	13.5	9.4	9.0	109.9			
				動物発信器専用受信機	3台					2,369	1,635	1,770	81.6	4.2	2.9	2.6	126.9			
		R3	サギ	推進事業 アライグマ捕獲檻	10台	80	80	86	86	0.1	0.1	0.1	0.1	82.4						
				デジタル簡易無線登録局	10台															
				イノシシ・シカ捕獲檻	10台															
				電気止め刺し機	18台															
		R4		推進事業 イノシシ・シカ捕獲檻	10台															
				デジタル簡易無線登録局	13台															
									12,365	8,655	9,818	68.7	43.3	30.3	27.7	120.2				
橋本市(橋本市鳥獣被害防止対策推進協議会)	橋本市	R2	イノシシ シカ アライグマ タヌキ カラス カワウ	緊急捕獲事業 イノシシ	1000			緊急捕獲活動による有害捕獲を推進したことで、イノシシ、シカ、アライグマの被害が軽減した。	6,733	4,713	5,297	71.1	24.9	17.4	15.5	125.4	猟友会の協力の下、有害捕獲に取り組んだ結果、令和4年度の捕獲頭数は、イノシシ454頭、シカ122頭、アライグマ94頭であった。計画目標についても達成率70%を超えほぼ達成することができた。その理由としては、生産者による自己防衛施策の充実や実施隊による捕獲・アライグマ防除講習会への参加者増加が挙げられる。 今後も引き続き、農業者等生産者に対し、狩猟免許等取得やアライグマの防除講習等を行い、鳥獣被害防止への意識を高めてもらうとともに、緊急捕獲等の事業を活用することによって向上に努めたい。	本事業により、イノシシやシカの捕獲について一定の効果がみられ被害軽減効果は高いと考えます。引き続き、捕獲力向上を図るとともに、状況に応じて侵入防止柵の整備や環境整備など複合的な対策を実施するなど被害防止に努めていただきたい。	被害金額は目標達成率が70%未満ですが、被害面積は目標を達成し、捕獲機材導入や捕獲対策等が一定の効果があつたと評価します。 被害をもたらしている主要な獣種については、いずれも基準年から被害額・面積とも減少しているため、これまでの対策の継続強化していくことが必要です。	
				イノシシ	93				2,051	1,435	1,592	74.5	13.5	9.4	9.0	109.9				
				シカ	118				2,369	1,635	1,770	81.6	4.2	2.9	2.6	126.9				
		R3	サギ	緊急捕獲事業 イノシシ	224	80	80	86	#DIV/0!	0.1	0.1	0.1	#DIV/0!							
				シカ	108	252	176	193	77.6	0.6	0.4	0.4	82.4							
				アライグマ	75	440	308	440	0.0	0.0	0.0	#DIV/0!								
		R4		緊急捕獲事業 イノシシ	454															
				シカ	122															
				アライグマ	94															
									12,365	8,655	9,818	68.7	43.3	30.3	27.7	120.2				
かつらぎ町(鳥獣被害防止対策協議会)	かつらぎ町	R2	イノシシ ニホンジカ サル アライグマ カラス カワウ・サギ	推進事業 イノシシ・シカ用捕獲檻	22基		個体数の増減による影響はあるが、計画どおり捕獲を目指し、一定の効果を上げていこうと考えている。	15,049	10,530	7,720	162.2						【被害額が減少しない原因】 イノシシでは、令和2年度に熟熱と考えられる影響で頭数が激減してから、その後ゆっくりと個体数は増加傾向である。 ニホンジカでは、捕獲頭数は増えているものの個体数の増加は進んでおり、山間部を中心に被害は増加している。 サルでは、町内河北の一部地域を中心とした行動をとっており、その地域周辺で農作物の被害が増加した。 アライグマでは、モモやブドウなどの単価の高い果実の被害が多数発生したことから被害額が増加した。 カラスでは、果樹園地を中心に捕獲しても他の個体がすぐに侵入している。また、銃所持者の高齢化が進んでおり、個体数の増加と被害範囲が広く、被害がやや増加することとなった。 カワウ・サギ類では、積極的な捕獲活動で被害額は減少した。 今回未達成となった理由としては、ニホンジカとカラスによる被害が大きく影響していると考ええる。 【今後の対策等】 実施主体である実施隊員は高齢化傾向ではあるが、猟友会の新規加入者もあり隊員数はほぼ維持できている状況であるため、引き続き隊員数の確保に努める。 イノシシ、ニホンジカでは、捕獲檻、くり罠、電気止め刺し機の配布を行い、捕獲数の増加を目指す。併せて、果樹防犯網の推進により被害防止を行う。 サルの被害対策として、令和4年度から1年を通して有害を出し、いつでも捕獲が行えるようにしている。捕獲檻の設置や実施隊銃器所持者との連携による捕獲活動を行う。 アライグマでは、狩猟免許を有しない者に対して従事者研修を行うとともに捕獲檻の貸出を行うことで、ある程度捕獲頭数の維持はできている。 カラス、カワウ・サギ類では、捕獲を進めるうえで銃所持者の高齢化が課題となっているため、担い手の育成確保に努める。	ここ数年の実績でも、多くのイノシシ・ニホンジカを捕獲していただいておりますが、個体数の増加等により依然として農作物等の被害は発生しているところですが、農作物等の被害の軽減のために、今後も地域住民と連携を図りながら、積極的な捕獲活動を行っていただきたいと考えます。	イノシシの被害額が大幅に減少したものの、シカ、サル、カラスの被害が大幅に増加し、目標達成が出来ない要因となっており、従来の対策では効果が十分でないと評価しています。 今後はこれらの鳥獣の被害の実情を詳細に把握した上で、地域の猟友会や農業者と連携し、鳥獣の特性に応じた対策(防護柵の設置推進と、シカでは捕獲の一層の強化、カラスは銃での追い払い等、サルは有害個体の捕獲を講じていくことが必要です。	
				電気止刺機	8個			1,304	910	2,680	-349.2									
				デジタル無線機	50台			31	20	910	-7,990.9									
		R3	サギ	推進事業 イノシシ・シカ用捕獲檻	32基	11,780	8,250	10,680	31.2											
				イノシシ	6,222	4,360	9,750	-189.5												
				シカ	4,992	3,490	3,320	111.3												
		R4		推進事業 イノシシ・シカ捕獲檻	21基															
									39,378	27,560	35,060	36.5	0.0	0.0	0.0	#DIV/0!				

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率(%)	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 (被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。)
										被害金額(千円)				被害面積(ha)						
										現状値	目標値	実績値	達成率(%)	現状値	目標値	実績値	達成率(%)			
かつらぎ町 (かつらぎ町鳥獣被害防止対策協議会)	かつらぎ町	R2	イノシシ ニホンジカ サル アライグマ カラス カワウ・サギ	緊急捕獲事業	(頭) 962				個体数の増減による影響はあるが、計画どおり捕獲を目指し、一定の効果を上げていると考えている。	15,049	10,530	7,720	162.2					【被害額が減少しない原因】 イノシシでは、令和2年度に豚熱と考えられる影響で頭数が激減してから、その後ゆっくりと個体数は増加傾向である。 ニホンジカでは、捕獲頭数は増えているものの個体数の増加は進んでおり、山間部を中心に被害は増加している。 サルでは、町内河北の一部地域を中心とした行動をとっており、その地域周辺で農作物の食害が増加した。 アライグマでは、モモやブドウなどの単価の高い果実の被害が多数発生したことから被害額が増加した。 カラスでは、果樹園地を中心に捕獲しても他の個体がすぐに侵入している。また、統所持者の高齢化が進んでおり、個体数の増加と被害範囲が広く、被害がやや増加することとなった。 カワウ・サギ類では、積極的な捕獲活動で被害額は減少した。 今回未達成となった理由としては、ニホンジカとカラスによる被害が大きく影響していると考えられる。  【今後の対策等】 実施主体である実施隊員は高齢化傾向ではあるが、猟友会の新規加入者もあり隊員数はほぼ維持できている状況であるため、引き続き隊員数の確保に努める。 イノシシ、ニホンジカでは、捕獲檻、くくり罠、電気止刺機の配布を行い、捕獲数の増加を目指す。併せて、果樹防護柵の推進により被害防止を行う。 サルの被害対策として、令和4年度から1年を通して有害を出し、いつでも捕獲が行えるようにしている。捕獲檻の設置や実施隊銃器所持者との連携による捕獲活動を行う。 アライグマでは、狩猟免許を有しない者に対して従事者研修を行うとともに捕獲檻の貸出を行うことで、ある程度捕獲頭数の維持はできている。 カラス、カワウ・サギ類では、捕獲を進めるうえで統所持者の高齢化が課題となっているため、担い手の育成確保に努める。	ここ数年の実績でも、多くのイノシシ・ニホンジカを捕獲していただいておりますが、個体数の増加等により依然として農作物等の被害は発生しているところですが、農作物等の被害の軽減のため、今後も地域住民と連携を図りながら、積極的な捕獲活動を行っていただきたいと考えます。	イノシシの被害額が大幅に減少したものの、シカ、サル、カラスの被害が大幅に増加し、目標達成が出来ない要因となっており、従来の対策では効果が不十分であると評価しています。 今後はこれらの上で、地域の猟友会や農業者と連携し、鳥獣の特性に応じた対策(防護柵の設置推進と、シカでは捕獲の一層の強化、カラスは銃での追い払い等、サルは有害個体の捕獲を講じていく)が必要です。
				緊急捕獲事業	136															
				緊急捕獲事業	117															
				緊急捕獲事業	314															
				イノシシ ニホンジカ	180				39,378	27,560	35,060	36.5	0.0	0.0	0.0	#DIV/0!				
九度山町 (伊都地方鳥獣被害対策連絡協議会)	九度山町	R2	イノシシ シカ アライグマ カラス カワウ・サギ	緊急捕獲事業	(頭) 293			有害捕獲の取組により、また、豚熱の影響による個体数の減少もあり、被害を一定程度抑制したと考えられる。	8,856	7,085	4,182	263.9	4.1	3.3	1.7	292.7	鳥獣被害対策実施隊活動における有害鳥獣の緊急捕獲の捕獲頭数が年々増加している。またイノシシについては、令和3年度の豚熱の発生で個体数が減少した影響が被害状況にあらわれていると考えられる。 また、防護柵の設置については、一体的な設置を進めているが、依然として「個」での対応もあり、「全体」としての効果は薄いようであるが、設置場所については確実な効果が現れ、農作物被害の減少にも寄っているものと思われる。	鳥獣の捕獲や農作物の被害額等からみると、被害防止に繋がっていることがうかがえる。今後も、町や猟友会ともに積極的に被害防止に向け、捕獲や防護柵設置といった対策を引き続き取り組んでいきたい。	被害金額・面積とも、目標を達成し、捕獲等の対策に効果があつたと評価しています。 今後も対策を継続していくが必要です。	
				緊急捕獲事業	149															
				緊急捕獲事業	77															
				緊急捕獲事業	118															
				イノシシ シカ	158				17,970	14,376	10,879	197.3	7.1	5.6	3.2	270.2				



事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率(%)	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 (被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。)
										被害金額(千円)				被害面積(ha)						
										現状値	目標値	実績値	達成率(%)	現状値	目標値	実績値	達成率(%)			
広川町鳥獣被害対策協議会	広川町	R2	イノシシ シカ サル アライグマ他	推進事業 実施隊による被害・生息状況調査	97人・日 1基 1基	広川町鳥獣被害対策協議会	R3.3.26	実施隊による被害・生息状況調査が、有害鳥獣の捕獲に繋がっている。 また、テレメトリ発信器をサルに装着することによりサルの群れの接近を感知でき、農作物被害の防除に一定の効果をおいている。 また、被害多発地域で防護柵を計画的に設置することで、被害が軽減できた。	3,843	3,030	2,373	180.8	20.3	16.2	15.6	113.7	農作物の被害及び有害鳥獣の生息状況調査の結果に基づき、銃やわな等を活用した有害捕獲による捕獲数の実績が上がっており、被害減少に効果があった。 また、防護柵の整備が進み、整備済地域では鳥獣被害が無くなっている。しかしながら、防護柵の未整備地域においては、鳥獣による被害が存在し、今後も被害の多い集落への啓発活動や、加害個体の捕獲活動の推進が依然として重要である。	被害が多い場所を中心として、農家自身による被害対策への意識向上が図られ、複数戸の農家が一体となって鳥獣対策に取り組んでいる地域が、複数ある。具体的には、箱わなや囲いわな等による有害鳥獣の捕獲活動等である。 今後はこれらの活動をより積極的に取り組んで行くに当たり、鳥獣対策の専門知識を地域全体で共有し、さらに理解を深めていくことが重要と思われる。	被害金額・面積とも目標達成されており、捕獲、防護等の対策に効果があったと評価します。 しかし、サルについては、被害が増加傾向にあるため、地域の農業者や狩猟者と連携し、地域ぐるみでの対策に取組を強化していく必要があります。	
				整備事業 防護柵の整備	3280m				5,151	4,070	3,070	192.5	21.5	17.2	15.5	140.1				
		R3	推進事業 実施隊による被害・生息状況調査	97 3 1	733				500	1,556	-353.2	2.0	1.6	2.4	-117.5	206.3				
		整備事業 防護柵の整備	1846m	11,107	8,700				8,319	115.8	55.7	44.5	40.5	135.3						
広川町(広川町鳥獣被害対策協議会)	広川町	R2	イノシシ シカ サル アライグマ ヒヨドリ	緊急捕獲事業	(頭) 227 342 8	有田川町鳥獣被害対策協議会	R2.12.14	猟友会の協力を得ながら実施しており、捕獲数は年々増加している。 捕獲数の増加に伴い、農作物被害は減少し、各年ともに目標値を達成することができた。	3,843	3,030	2,373	180.8	20.3	16.2	15.6	113.7	防護柵の整備が進み、整備済地域では鳥獣被害が無くなっている。また、銃やわな等を活用した有害捕獲による捕獲数の実績が上がっており、被害減少に一定の効果があった。 しかしながら、未整備地域においては、鳥獣による被害が存在し、今後も被害の多い集落への対策や、加害個体の捕獲活動の推進が依然として重要である。	被害が多い場所を中心として、農家自身による被害対策への意識向上が図られ、複数戸の農家が一体となって鳥獣対策に取り組んでいる地域が、複数ある。具体的には、箱わなや囲いわな等による有害鳥獣の捕獲活動等である。 今後はこれらの活動をより積極的に取り組んで行くに当たり、鳥獣対策の専門知識を地域全体で共有し、さらに理解を深めていくことが重要と思われる。	被害金額・面積とも目標達成されており、捕獲、防護等の対策に効果があったと評価します。 しかし、サルについては、被害が増加傾向にあるため、地域の農業者や狩猟者と連携し、地域ぐるみでの対策に取組を強化していく必要があります。	
				整備事業 防護柵の整備	2800m				5,151	4,070	3,070	192.5	21.5	17.2	15.5	140.1				
		R3	緊急捕獲事業	95 332 3	733				500	1,556	-353.2	2.0	1.6	2.4	-117.5	206.3				
		整備事業 防護柵の整備	2050m	11,107	8,700				8,319	115.8	55.7	44.5	40.5	135.3						
有田川町鳥獣被害防止対策協議会	有田川町	R2	イノシシ シカ サル アライグマ アナグマ ハクビシン カラス ウサギ ヒヨドリ	推進事業 実施隊による捕獲・調査活動	507人・日 1基	有田川町鳥獣被害防止対策協議会	R4.1.16	猟友会と連携を取りながら、農作物等の被害低減に努めた。 実施隊による被害・生息状況調査により、有害鳥獣の捕獲に繋がっている。 集落柵の導入により、地域ぐるみで鳥獣を寄せ付けない環境づくりを実施した。 サル対策として、囲い農を導入し、群れ捕獲を試みた。	22,355	15,608	13,935	124.8	74.9	51.1	22.9	218.5	実施隊の活動については年々出勤回数が増え、生息調査並びに捕獲活動を活発に行い、成果を挙げている。 また、令和4年度からは「他地域人材活用」メニューを活用することで、実施隊活動に広がりを持たせた活動を推進することができている。 防護柵については、設置地域では特にシカによる被害が減少傾向にあり、防護柵の効果により農地を含む集落内への有害鳥獣の出入りがほぼ無くなったと言う住民からの声も届いている。 ドローンについては、操縦資格の取得から行い、実際の飛行により効果を検証を始めたところ。今後も獣害柵点検等の効果を検証しながら鳥獣対策に活用していく予定である。	国庫事業等を積極的に活用しながら鳥獣被害防止に努めており、防護柵を設置した集落では効果がみられている。しかし、野生鳥獣の生息数は依然として高い水準を保っていると考えられる。捕獲圧の維持が必要と考えられる。 このため、関係者と連携しながら、侵入防止、捕獲等の対策を今後も継続させたい。	被害金額は目標をほぼ達成し、被害面積は目標を達成しており、実施隊活動等の捕獲や防護柵の整備等の複合的に実施された対策に一定の効果があったと評価します。 しかし、シカ、サル、アライグマなどにおいて、被害金額が基準年より増加しているため、それらの獣種に応じた対策を強化していく必要があります。	
				整備事業 防護柵の整備	2800m				6,052	4,236	3,727	-72.7	149.5	104.6	86.9	139.5				81.3
		R3	推進事業 実施隊による捕獲・調査活動	501人・日	1,376				963	1,413	-9.0	1.4	0.9	1.6	-30.0	76.0				
		整備事業 防護柵の整備	2050m	2,100	1,470				1,650	71.4	1.0	0.7	0.75	83.3						
有田川町鳥獣被害防止対策協議会	有田川町	R4	イノシシ シカ サル	推進事業 実施隊による捕獲・調査活動	503人・日 1機	有田川町鳥獣被害防止対策協議会	R4.1.16	猟友会と連携を取りながら、農作物等の被害低減に努めた。 実施隊による被害・生息状況調査により、有害鳥獣の捕獲に繋がっている。 集落柵の導入により、地域ぐるみで鳥獣を寄せ付けない環境づくりを実施した。 サル対策として、囲い農を導入し、群れ捕獲を試みた。	3,843	3,030	2,373	180.8	74.9	51.1	22.9	218.5	実施隊の活動については年々出勤回数が増え、生息調査並びに捕獲活動を活発に行い、成果を挙げている。 また、令和4年度からは「他地域人材活用」メニューを活用することで、実施隊活動に広がりを持たせた活動を推進することができている。 防護柵については、設置地域では特にシカによる被害が減少傾向にあり、防護柵の効果により農地を含む集落内への有害鳥獣の出入りがほぼ無くなったと言う住民からの声も届いている。 ドローンについては、操縦資格の取得から行い、実際の飛行により効果を検証を始めたところ。今後も獣害柵点検等の効果を検証しながら鳥獣対策に活用していく予定である。	国庫事業等を積極的に活用しながら鳥獣被害防止に努めており、防護柵を設置した集落では効果がみられている。しかし、野生鳥獣の生息数は依然として高い水準を保っていると考えられる。捕獲圧の維持が必要と考えられる。 このため、関係者と連携しながら、侵入防止、捕獲等の対策を今後も継続させたい。	被害金額は目標をほぼ達成し、被害面積は目標を達成しており、実施隊活動等の捕獲や防護柵の整備等の複合的に実施された対策に一定の効果があったと評価します。 しかし、シカ、サル、アライグマなどにおいて、被害金額が基準年より増加しているため、それらの獣種に応じた対策を強化していく必要があります。	
				整備事業 防護柵の整備	2050m				6,052	4,236	3,727	-72.7	149.5	104.6	86.9	139.5				81.3







事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率(%)	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 (被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。)
										被害金額(千円)				被害面積(ha)						
										現状値	目標値	実績値	達成率(%)	現状値	目標値	実績値	達成率(%)			
日高川町 (日高川町農業振興協議会)	日高川町	R2	イノシシ シカ サル アライグマ タヌキ カラス	緊急捕獲事業	993 1136 129 107 62				農地周辺に出没する鳥獣の捕獲を行った事により、農作物への被害軽減効果が得られた。	3,785 1,170 6,245 620 685 470	3,329 1,029 5,494 545 602 413	2,191 886 6,567 502 559 379	349.6 201.4 -42.9 157.3 151.8 159.6	11.7 7.2 15.0 1.5 2.0 1.7	10.3 6.3 13.2 1.3 1.8 1.5	5.1 3.8 11.9 1.1 1.6 1.4	468.6 396.6 169.8 182.4 162.5 166.7	鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業における有害捕獲により農地周辺に出没するイノシシ、ニホンジカなどを効果的に捕獲できたことで、農作物への被害軽減が図ることができた。しかし、ニホンザルによる被害が増大しつつあることから、より一層の捕獲強化に取り組む必要がある。	有害捕獲により、イノシシ・ニホンジカについては、一定の個体数調整が図られ、侵入防止柵等の設置により被害軽減の効果がみられるが、ニホンザルについては、被害対策も難しく農作物への被害が増大しており、ニホンザルによる被害対策に力を入れていただきたい。	被害金額・面積とも目標を達成され、捕獲や地元住民による環境整備隊を組織した追い払い活動、防護柵の整備など複合的な対策を講じた効果が出ています。ただし、サルの被害は増加傾向にあるため、今後は既に取り組まれている適切な対策を講じていくことが必要です。
		R3	イノシシ シカ サル アライグマ カラス	緊急捕獲事業	636 1389 166 112 151															
		R4	イノシシ シカ サル アライグマ カラス	緊急捕獲事業	471 1287 160 99 106															
											12,975	11,412	11,084	121.0	39.1	34.4	25.0	301.3		
那智勝浦町 鳥獣害対策協議会	那智勝浦町	R2	イノシシ シカ サル アライグマ カラス他	推進事業 実施隊による捕獲活動 箱わな(イノシシ・シカ)の整備	77人・日 5基			実施隊については、捕獲体制強化の一環により結成、個体数減少に効果があった。	2,124 2,808 2,436 2 18 0	1,912 2,527 1,948 2 0 0	1,865 2,556 2,078 2 10 0	122.2 89.7 73.4 #DIV/0! 44.4	5.8 6.6 6.9 0.0 0.0 0.0	5.3 6.0 5.5 0.0 0.0 0.0	5.1 6.0 5.8 0.0 0.0 0.0	127.1 89.4 81.2 66.7	実施隊による捕獲活動については、有害鳥獣捕獲駆除と並行して年3回実施し、猟友会員の情報交換、被害対策の一翼を担っているという意識の向上に繋がった。また、自治会から要望があった地域で一斉捕獲事業を実施するなどの取り組みを行っている。	本町は、面積の9割ほどが山地である為、鳥獣による農作物被害が多い地域であります。近年は農作物被害だけでなく、掘り返しによる落石被害や住宅街への出没などの事案も発生しています。そういった現状の中で農作物被害の軽減や個体数の削減に対し鳥獣被害防止総合対策事業による実施隊事業等を実施することによる効果は大きいと考えます。	被害金額、面積とも着実に減少、目標をほぼ達成され、実施隊活動や有害捕獲などの対策に一定の効果があったと評価します。今後も対策を継続し、更なる被害軽減に努めていくことが重要です。	
		R3	イノシシ シカ	推進事業 実施隊による捕獲活動 箱わな(イノシシ・シカ)の整備	86.5人・日 6基			実施隊については、捕獲体制強化の一環により結成、個体数減少に効果があった。	0 0	0 0	0 0	#DIV/0! 44.4	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0		
		R4	イノシシ シカ	推進事業 実施隊による捕獲活動	87人・日															
											7,388	6,389	6,517	87.2	19.4	16.8	16.9	94.0		
那智勝浦町 (那智勝浦町鳥獣害対策協議会)	那智勝浦町	R2	イノシシ シカ サル アライグマ カラス他	緊急捕獲事業	(頭) 414 919 176 13			農地周辺に出没する鳥獣を効果的に捕獲し、農作物被害を減少した。	2,124 2,808 2,436 2 18 0	1,912 2,527 1,948 2 0 0	1,865 2,556 2,078 2 10 0	122.2 89.7 73.4 #DIV/0! 44.4	5.8 6.6 6.9 0.0 0.0 0.0	5.3 6.0 5.5 0.0 0.0 0.0	5.1 6.0 5.8 #DIV/0! 66.7	127.1 89.4 81.2 66.7	有害捕獲の取り組みにより、農地周辺に出没する鳥獣を効果的に捕獲し、被害防止に貢献した。しかし、基準と比較して、被害金額及び被害面積は減少したものの、町内ではまだ多くの被害が発生している。被害の削減には、より一層の捕獲数の増加が必要と考える。現在取り組みを行っている地域おこし協力隊による地域農家と連携した獣害対応の取り組みをすすめ、より効果的な捕獲を推進していく。	本町は、面積の9割ほどが山地である為、鳥獣による農作物被害が多い地域であります。近年は農作物被害だけでなく、掘り返しによる落石被害や住宅街への出没などの事案も発生しています。そういった現状の中で農作物被害の軽減や個体数の削減に対し鳥獣被害防止総合対策事業による有害捕獲等を実施することによる効果は大きいと考えます。	被害金額、面積とも着実に減少、目標をほぼ達成され、実施隊活動や有害捕獲などの対策に一定の効果があったと評価します。今後も対策を継続し、更なる被害軽減に努めていくことが重要です。	
		R3	イノシシ シカ サル アライグマ	緊急捕獲事業	111 643 33 7															
		R4	イノシシ シカ サル アライグマ	緊急捕獲事業	23 537 32 1															
											7,388	6,389	6,517	87.2	19.4	16.8	16.9	94.0		



事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率(%)	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価 (被害金額・面積のいずれか70%以上の達成率の場合、ほぼ達成とした。)
										被害金額(千円)				被害面積(ha)						
										現状値	目標値	実績値	達成率(%)	現状値	目標値	実績値	達成率(%)			

- 注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。  
 2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。  
 3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。  
 4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。  
 5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

## 5 都道府県による総合的評価

県全域において有害捕獲、防護柵の整備、捕獲の担い手確保・育成に取り組んできた結果、令和4年度の被害額2.61億円と令和3年度と同程度であるものの、平成27年度3.43億円からは減少傾向にある。その大きな要因であるイノシシの被害額の急激な減少はイノシシの豚熱蔓延による影響が大きいと考えられるため、今後の動向を注視していく必要がある。また、県では令和3年度末に令和4～8年度を対象期間としたイノシシ、ニホンジカ、ニホンザルに対する第二種特定鳥獣管理計画を策定しており、その内容を踏まえ、推定生息数が増加傾向にあるニホンジカの捕獲強化に取り組むとともに、各鳥獣種別の動向を踏まえ、捕獲の推進をはかっているところである。今後も、各地域の状況を踏まえながら、市町村や関係団体と連携し、捕獲や防護対策を着実に実施・推進し、捕獲を担う者の確保と育成、実施隊活動の推進等も併せて行うことにより、ソフト・ハード両面から被害軽減対策を推進していく。